

平日聖体礼儀

単音聖歌譜



司祭祈禱

注意 譜面中、五線譜上に ||●|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2024年2月13日 一部改訂

釧路ハリストス正教会

管轄司祭ステファン内田圭一

司祭) (黙誦: 天の王、慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者
 よ、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主よ、來りて我等の中に居り、我等を
 もるもろ けがれ いさぎよ しぜんしゃ われら たましい すく たま い たか
 諸の穢より潔くせよ、至善者よ、我等の靈を救い給え。至と高き
 こうえいかみ き ち へいあんくだ ひと めぐみ のぞ い たか こうえいかみ
 は光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、至と高きには光榮神に
 き ち へいあんくだ ひと めぐみ のぞ しゅ わ くちびる ひら しか わ
 歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、主よ、我が唇を啓けよ、然せば我
 くち なんぢ さんび あ
 が口は爾の讚美を揚げんとす、)

司祭) 父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世に、



【 大聯誦 】

司祭) 我等安和にして主に禱らん、



司祭) 上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



司祭) 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



司祭) 此の聖堂、及び信と慎と神を畏る心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、



司祭) 教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリス

よ ほさいしよく ことごと きょうしゅう およ しゅうじん ため しゅ いの
トスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



司祭) わがくに てんのう およ くに つかさど もの ため しゅ いの
我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



司祭) こ まち およそ まち ちほう ため およ しん もつ こ うち お もの ため しゅ いの
此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



司祭) きこうじゅんわ ごこくほうじょう てんかたいへい ため しゅ いの
氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



司祭) こうかい もの りょこう もの やまい うれ もの かんなん あ もの とりこ もの およ
航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び
かれら すくい ため しゅ いの
彼等の救の爲に主に禱らん、



司祭) われらもろもろ うれい いかり あやうき まぬが ため しゅ いの
我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



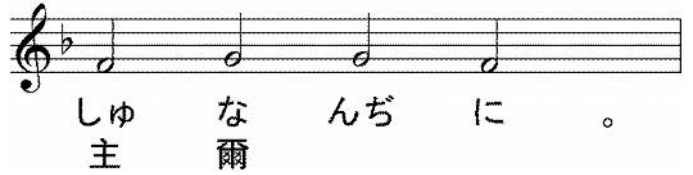
司祭) かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも
神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、



司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ
至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) (黙誦：主我が神よ、爾の權柄は像り難く、光榮は測り難し、爾の仁慈は限

り無く、仁愛は言い難し、求む主宰よ、爾の慈憐に因りて、親ら我等と此の

せいどう かえり われらおよ われら とも いの もの なんぢ ゆたか おんたく なんぢ
聖堂とを眷み、我等及び我等と偕に禱る者に爾の豊なる恩澤と爾の

あいれん ほどこ たま
愛憐とを施し給え、)

司祭) けだし およ こうえいそんきふくはい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ
蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、



【 第一アンティフォン 第91聖詠 】

しじょうしゃよ、しゅをさんえいするはびなるかな。
至上者主讚榮美哉

きゆうせいしゅよ、しょうしんぢよのきとうにより
救世主生神女祈禱因

てわれらをすくいたまあえ。
我等救給

しじょうしゃよ、しゅをさんえいし、なんぢのなにうた
至上者主讚榮爾名歌

うはびなるかな。
美



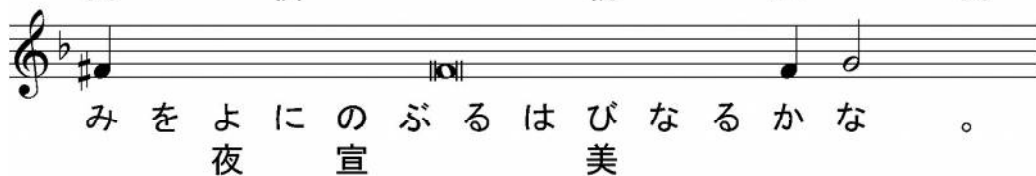
きゆうせ いしゅよ、しょうしんぢよのきとうにより
救世主 生神女 祈祷 因



てわれらをすくいたまあえ。
我等 救 給



なんぢのあわれみをあさにのべ、なんぢのあわれ
爾 憐 朝 宣 爾 憐



みをよにのぶるはびなるかな。
夜 宣 美



きゆうせ いしゅよ、しょうしんぢよのきとうにより
救世主 生神女 祈祷 因



てわれらをすくいたまあえ。
我等 救 給



しゅわがかみはぎにして、そのうちにふぎな
主我神 義 其 中 不 義



し。



きゆうせ いしゅよ、しょうしんぢよのきとうにより
救世主 生神女 祈祷 因



てわれらをすくいたまあえ。
我等 救 給



こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今



いつもよよに、アミン。
何時 世世



きゅうせい いしゅよ、しょうしんぢよのきとうにより
救世 主 生神女 祈祷 因



てわれらをすくいたまあえ。
我等 救 給

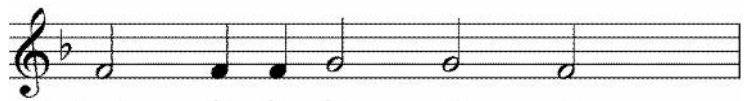
【 小聯禱 】

司祭) ^{われらまたまたあんわ} 我等復又 ^{しゅ いの} 安和にして主に禱らん、



しゅあわれめよ。
主 憐

司祭) ^{かみ なんぢ おんちやう もつ われら たす すく あわれ まも} 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、



しゅあわれめよ。
主 憐

司祭) ^{しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ} 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら} 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

^{いのち もつ かみ いたく} 生命を以て、ハリストス神に委託せん、



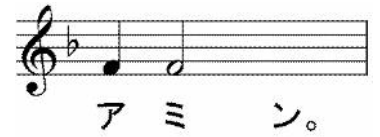
しゅなんぢに。
主 爾

司祭) (黙誦: ^{しゅわ かみ なんぢ たみ すく およ なんぢ しぎやう ふく くだ なんぢ きやうかい} 主我が神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教會

^{じゅうまん まも なんぢ どうび あい もの せい なんぢ しんせい ちから} の充滿を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力

^{もつ かれら こうえい われらなんぢ たの もの のこ なか} を以て彼等を光榮し、我等爾を恃む者を遺す勿れ、)

司祭) ^{けだしけんぺいおよ くに けんとう こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ} 蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【 第二アンティフォン 第92聖詠 】

しゅはおうたり、かれはいげんをきたり。
主 王 彼 威 嚴 衣

きゅうせい いしゅよ、なんぢのしよせいしゃのきとう
救 世 主 爾 諸 聖 者 祈 禱

によりてわれらをすくいたまあえ。
因 我 等 救 給

しゅはおうたり、かれはいげんをきたり、しゅは
主 王 彼 威 嚴 衣 主

のうりよくをき、またこれをおびにせり。
能 力 衣 又 之 帶

きゅうせい いしゅよ、なんぢのしよせいしゃのきとう
救 世 主 爾 諸 聖 者 祈 禱

によりてわれらをすくいたまあえ。
因 我 等 救 給

ゆえにせかいはけんごにしてうごかざらん。
故 世 界 堅 固 動

きゅうせい いしゅよ、なんぢのしよせいしゃのきとう
救 世 主 爾 諸 聖 者 祈 禱

によりてわれらをすくいたまあえ。
因 我 等 救 給

なんぢのけいしはまことにただし。しゅよ、せい
 爾 啓 示 誠 正 主 聖
 とくはなんぢのいえにぞくしてえいえんにいた
 徳 爾 家 屬 永 遠 至
 らん。

きゅうせいしゅよ、なんぢのしよせいしゃのきとう
 救 世 主 爾 諸 聖 者 祈 禱
 によりてわれらをすくいたまあえ。
 因 我 等 救 給

【 神の獨生の子 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今
 いつもよよに、アミン。
 何 時 世 世

かみのどくせいのこならびにことばよ、
 神 獨 生 子 並 言
 しせざるものにしてわれらをすくわがため
 死 者 我 等 救 爲
 あまんじてせいなるしょうしんぢよ・えいていどうぢよ
 甘 聖 生 神 女 永 貞 童 女
 マリヤよりみをと取り、かみのせいをかえ
 身 取 神 性 易

ずしてひととなりじゅうじかにくぎうたれ、
 人 十 字 架 釘

しをもってしをふみやぶりしハリストスカみよ、
 死 以 死 踏 破 し 神

せいさんしゃのいつとしてちちとせいしんとと共
 聖 三 者 一 父 聖 神 共

もにさんえいせらるるのしゅよ、われらをす
 讚 榮 主 我 等 救

くいたまあえ。
 給

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ しゅ いの
 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅあわれめよ、しゅあわれめよ。
 主 憐 主 憐

司祭) かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも
 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ
 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら
 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく
 生命を以て、ハリストス神に委託せん、

しゅ なんぢ に、
 主 爾

司祭) (黙誦：われら こ こうどうわごう きとう たま かつ にさんにんなんぢ な よ あつ もの
 我等に此の共同和合の祈禱を賜い、曾て二三人爾の名に依りて集まる者に

そのもと ところ たま やく しゅ なんぢみづか いま なんぢ しょぼく ねがい その
 も其求むる所を賜うを約せし主よ、爾親ら今も爾が諸僕の願を其

りえき ため かな われら こんせ なんぢ しんり し らいせ えいえん
 利益の爲に應わしめて、我等に今世には爾の眞理を識り、來世には永遠の

いのち え たま
生命を得るを給え、)

司祭) けだしなんぢ ぜん ひと あい かみ われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま
蓋 爾 は善にして人を愛する神なり、我等光榮を 爾 父と子と聖神に献ず、今も

いつ よよ
何時も世に、



【 第三アンティフォン 第94聖詠 】



こ 子 よ 、 わ れ ら な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を う と う も の
 我 等 爾 歌 者

を す く い た ま あ え 。
 救 給

け だ し し ゅ は お お い な る か み 、 お お い な る お う
 蓋 主 大 神 大 王

に し て し ゃ し ん に ま さ る 。
 諸 神 勝

せ い し ゃ の う ち に お ご そ か に あ ら わ る る か み の
 聖 者 中 嚴 現 神

こ 子 よ 、 わ れ ら な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を う と う も の
 我 等 爾 歌 者

を す く い た ま あ え 。
 救 給

ち の ふ か き と こ ろ は そ の て に あ り 、 や ま の い
 地 深 處 其 手 在 山 嶺

た だ き も か れ に ぞ く す 。
 彼 屬

せ い し ゃ の う ち に お ご そ か に あ ら わ る る か み の
 聖 者 中 嚴 現 神

こ 子 よ 、 わ れ ら な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を う と う も の
 我 等 爾 歌 者

を す く い た ま あ え 。
 救 給

う み は か れ に ぞ く す 、 か れ こ れ を つ く れ り 、
 海 彼 屬 彼 之 造

く が も ま た そ の て の つ く り し と こ ろ な り 。
 陸 亦 其 手 造 所

せ い しゃ の う ち に お ご そ か に あ ら わ る る か み の
 聖 者 中 嚴 現 神

こ よ 、 わ れ ら な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を う と う も の
 子 我 等 爾 歌 者

を す く い た ま あ え 。
 救 給

司祭) (黙誦：主宰・主・我等の神、諸天に天使及び、天使首の品級と軍隊とを立て

て爾が光榮の奉事者となしし者よ、求む我等の入るに伴いて、彼の我等と

ともつとともなんぢしぜんさんえいせいてんしらいいたたまけだしおよ
 偕に務め、共に爾の至善を讚榮する聖天使等の入るを致させ給え、蓋、凡

そ光榮尊貴伏拝は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、)

司祭) 睿智、肅みて立て、

き た れ ハ リ ス ト ス の ま え に ふ し お が ま ん、
 來 前 伏 拜

せ い しゃ の う ち に お ご そ か に あ ら わ る る か み の
 聖 者 中 嚴 現 神

こ よ 、 わ れ ら な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を う と う も の
 子 我 等 爾 歌 者

を す く い た ま あ え 。
 救 給